



KYOTO NATIONAL MUSEUM 2026 January to March, vol. 229



新春特集展示

うまづくし

— 千支を愛でる —

特集展示

薩摩島津氏と東福寺即宗院

特集展示

光琳かるたと

小西家伝来尾形光琳関係資料

特集展示

縁を結ぶかたな

— 国宝・重要文化財で学ぶ刀剣鑑賞 —

特集展示

雛まつりと人形



京都国立博物館

だより

二〇二六年

一・二・三月号

うまづくし

—千支を愛でる—

12月16日(火)

令和8年1月25日(日)

〔平成知新館 2F—1—3〕

令和8年の「千支を愛でる」もファミリー向け！

作品を見るのが楽しくなるワークシート(小学校低学年)

やさしい解説文(小学校高学年)

2026年の千支は午(馬)ですね。

みなさんは馬を近くで見ることがあります吗？ 今は見ることが減りましたが、昔は、馬は人の身近にいた生き物でした。「うまづくし—千支を愛でる—」では、次の4つのテーマに沿って作品を展示します。

1 あこがれの馬

人を乗せたり、荷物を運んだりしてくれる馬は、人間にとって大切な相棒でした。それだけではありません。立派な馬を持つことは、立派な人のしるしでした。昔の人があこがれた、カッコいい馬たちを見てみましょう。

2 かける馬

スポーツや競争で活躍する馬たちを集めました。人と馬が一つの体になったように、息を合わせてうまく走ることを、「人馬一体」と言います。人馬一体になってかける姿を、見つけに行きましょう。

3 いのりと馬

人々は、いのりを込めて馬の形をつくり、神様に捧げたり、飾ったりしました。これらの馬たちは、どんな思いを込めて作られたのでしょうか。

4 うまづくし！

野生の馬や、実物大の馬、とにかくたくさんさんの馬が、展示室であなただけを待っています。かけたり、草を食べたり、いなないたり。あなたのお気に入りの馬はいますか？

ワークシートを片手に、どんな馬たちがいるか探しに行ってみましょう！
(水谷亜希)



重要文化財 駿馬図 景徐周麟賛 京都国立博物館



賀茂競馬文様小袖 永田七郎氏寄贈・京都国立博物館



五月人形のうち 飾馬 宇野原正子氏寄贈・京都国立博物館



重要美術品 三彩馬備 銭高衣子氏寄贈・京都国立博物館



楊妃撃丸図(部分) 北川豊氏寄贈・京都国立博物館

【特集展示】

薩摩島津氏と

東福寺即宗院

12月16日(火)～令和8年1月25日(日)

【平成知新館 1F・2F】

博物館で作品に接していると、いつも「よくぞ遺ってくれた」と思わずにはいられません。なにしろ、彼らは数百年、場合によっては千年以上の時を経て伝えられたわけですから。この特集展示の主人公、東福寺即宗院にまつわる文化財にも似たような感覚を抱きました。

即宗院は、東福寺の山内に数多く存在する塔頭(とうとう)寺院の一つで、現存最古の方丈が国宝指定をうけていることで有名な龍吟庵(りゅうぎんあん)のすぐ東に位置します。島津氏久(しまづしきひさ)(一三二八～一三八七)の菩提を弔うため、剛中玄柔(ごうちゅうげんじゅう)(東福寺五十四世)を開基にむかえ、嘉慶元年(一三八七)に創建されたといえます。永禄十一年(一五六九)には火災で焼失するものの、島津家久(しまづいえひさ)(忠恒、一五七六～一六三八)の尽力により、慶長十八年(一六三三)に再興を遂げました。このように、島津氏の菩提寺として歳月を重ねるなかで、即宗院に集積された寺宝の多くは、残念ながら明治維新後の混乱期に寺外へ流出したようです。文化財はあるべきところを離れると、時間が経つにしたがい、本来の秩序や規模は失われますが、令和四年(二〇二二)度、当館は工芸品四点にくわえ、八十八通もの古文書をご寄贈いただきました。確かめると、二通を除けば、いずれも新出と考えられるから驚きです。

そこで、今回の展示では、およそ百五十年ぶりの奇跡の再会を記念し、桃山時代から幕末にいたる古文書のなかでも中核をなす、即宗院の再建に関わるものを中心に紹介いたします。

(羽田 聡)

【特集展示】

光琳かるたと

小西家伝来

尾形光琳関係資料

12月16日(火)～令和8年2月1日(日)

【平成知新館 2F・4・5】

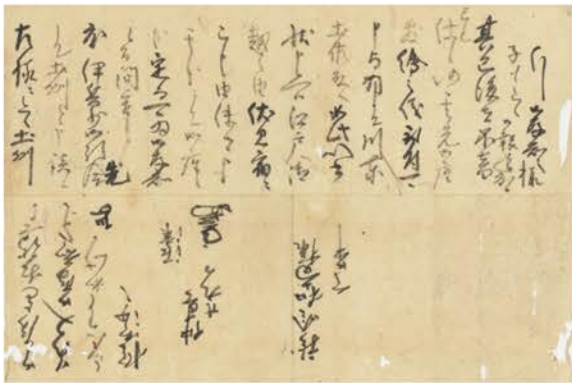
京都国立博物館には、「小西家伝来尾形光琳関係資料」(以下、「小西家資料」と呼ばれる資料群が所蔵されています。これは、尾形光琳(一六五八～一七一六)の子、寿市郎が養子に入った小西家に伝来したもので、光琳の生家である呉服商雁金屋に関わる文書のみならず、尾形家の経済・生活等に関わる文書、さらには光琳の画稿・図案類までもが多数含まれる、きわめて貴重な資料群です。現在、全体の約九割にあたる五三〇点が当館の所蔵となっており、残る部分を大阪市立美術館が所蔵、これに散逸分が加わって全体を構成しています。江戸時代前期に活躍した画家で、これほど多くの資料がまとまって伝存しているケースはほかに見当たりません。

「小西家資料」からは、光琳の私生活を含むさまざまな情報を知ることができます。たとえば、光琳が父宗謙から相続した莫大な遺産のこと、女性関係のトラブルから訴えられ、多額の手切れ金を支払ったこと、弟の乾山から借金返済を迫られていたこと…。放蕩の限りを尽くした光琳が画家としての道を選んだのは、主として経済的な困窮が理由だったと考えられています。そんなことがわかるのも、この「小西家資料」のおかげなのです。

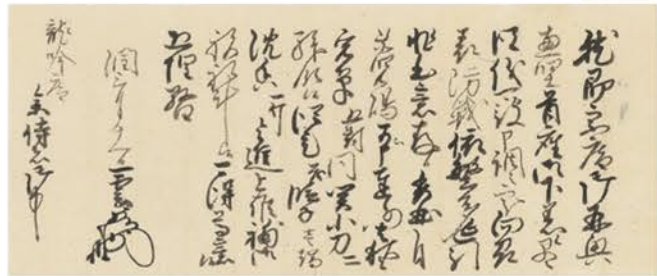
ところで、近年当館に新たに寄託された「小倉百人一首歌留多」は、光琳が手掛けた小倉百人一首かるたとして名高く、「光琳かるた」の愛称をもって知られています。和歌の上の句を記す読み札には歌人の肖像が、下の句を記す取り札には和歌にちなむ歌意絵が描かれており、一枚ずつ絵柄の異なる計二百枚の



伊勢貞昌書状 (折紙、十一月五日付)



沼津正書状 (折紙、仲夏廿九日付)



北郷時久書状 (切紙、潤三月十一日付)



伊集院忠棟書状 (切紙、六月廿八日付)

※すべて東福寺即宗院(薩摩島津氏菩提寺)関係文書のうち 長岡成光氏寄贈・京都国立博物館



小倉百人一首歌留多 尾形光琳筆



重要文化財 美人図画稿 (小西家伝来尾形光琳関係資料のうち) 尾形光琳筆 京都国立博物館



重要文化財 百人一首画稿 (小西家伝来尾形光琳関係資料のうち) 尾形光琳筆 京都国立博物館

1F・1 彫刻

【平安時代の仏像】

【神像と師子・狛犬】

12月16日(火)～令和8年3月22日(日)

1F・2 特別展示室

【特集展示】 薩摩島津氏と東福寺即宗院

12月16日(火)～令和8年1月25日(日)

【特集展示】 雛まつりと人形

2月7日(土)～3月15日(日)

1F・3 書跡

【東福寺の墨蹟】

12月16日(火)～令和8年1月25日(日)

【和歌と典籍】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)

【神護寺経

根本御経と金泥一切経、法華会御経】

2月25日(水)～3月22日(日)

1F・4 染織

【染織の文様・吉祥】

12月16日(火)～令和8年2月1日(日)

【特集展示】 縁を結ぶかたな

― 国宝・重要文化財で学ぶ刀剣鑑賞 ―

2月4日(水)～3月22日(日)

1F・5 金工

【奉納された鏡・華鬘・鑑】

12月16日(火)～令和8年2月1日(日)

【特集展示】 縁を結ぶかたな

― 国宝・重要文化財で学ぶ刀剣鑑賞 ―

2月4日(水)～3月22日(日)

1F・6 漆工

【京都が生んだ洗練の形 ― 美濃屋漆器コレクション ―】

12月16日(火)～令和8年2月1日(日)

【カジュアル&デラックス―高台寺蒔絵―

2月4日(水)～3月22日(日)

※3F・1・2は3月17日～22日、1F・2は1月27日～2月6日、3月17日～22日、1F・4・5・6は2月3日が閉室となります。

文化財や歴史上の事物との出会いには様々な入口があります。昨今さまざまなブームとなっている「日本刀」も例外ではありません。ゲーム、漫画、アニメ、小説、舞台、ミュージカル、そして歌舞伎まで、日本刀をテーマとした様々なカルチャーは、文化財としての日本刀そのものに触れる契機ともなっています。この展示では、京都国立博物館の収蔵する国宝・重要文化財の名品を教材として、普段の生活では身近に感じることのできない刀剣そのものに隠された見どころを「形」「銘」「刃文」「刀身彫刻」の四つのテーマに沿ってご紹介します。

(末兼俊彦)



重要文化財 太刀 銘波平行安 (号笹貫) 京都国立博物館

重要文化財 刀 金象嵌銘本多美濃守所持 義弘本阿 (花押) (名物桑名江) 京都国立博物館

平成知新館 名品ギャラリー

【特集展示】

雛まつりと人形

令和8年2月7日(土)～3月15日(日)

【平成知新館 1F—2】

土手の枯草にも青い芽がのぞきはじめ、今年もまた雛の季節がめぐってきました。

雛まつりは「上巳の節句」ともいい、もとは古代中国に起源を持つ禊の行事で、日本に取り入れられると、貴族らは川辺で祓を行い、曲水の宴を催すようになります。そこで用いた人形は、日常生活の中で人間についた穢れを引き受け、水に流すなどして捨てられました。現代でも「流し雛」として目にする事ができます。この習俗がやがて、子どもが遊びに用いる人形と結びつき、江戸時代には座敷に飾りつける雛人形や雛段へ発展したと考えられています。

「内裏雛」とも呼ばれるように、雛人形のモデルとされたのは、天皇と皇后の姿です。本年の「雛まつり」と人形」では、雛人形を通して表現された天皇と皇后の姿の移り変わりに注目します。江戸時代の人々が漠然と抱いていた天皇のイメージを托したものから、写真などを参考に、その姿を正確に写そうとした明治時代以降の品まで、一つの世も、憧れのまなざしをもって、大切に守り伝えられてきた雛人形の諸相をお楽しみください。

(山内麻衣子)



享保雛（大内雛） 京都国立博物館



京風古今難 玉城芳江氏寄贈・京都国立博物館



御所人形 春駒持 京都国立博物館



段飾り雛 五世大木平蔵作 山本あや氏寄贈・京都国立博物館

【ミュージアムパートナー一覧】

※令和7年12月末現在
京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

【ゴールド】土屋和之

株式会社SCREENホールディングス

株式会社 俄／一般財団法人 NISSHA 財団

【シルバー】 学校法人二本松学院

東レユニバシニアル・インターナショナル株式会社／佐藤正人

【ブロンズ】 原田清朗／片山明

【キャンパスメンバーズ】

※令和7年12月末現在

「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として、文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および教職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会等さまざまな特典を提供しています。

学校法人 瓜生山学園／追手門学院大学
 国立大学法人 大阪大学／大阪大谷大学
 大谷大学／学校法人 大手前学園
 学校法人 関西大学／学校法人 関西学院
 国立大学法人 京都大学／京都華頂大学
 国立大学法人 京都工芸繊維大学
 学校法人 京都産業大学
 学校法人 京都女子学園／京都市立芸術大学
 京都精華大学／京都先端科学大学／京都橘大学
 京都府立大学／近畿大学
 国立大学法人 神戸大学／四天王寺大学
 就美大学／成安造形大学
 国立大学法人 総合研究大学院大学
 学校法人 大覚寺学園／帝塚山大学
 学校法人 同志社／奈良大学
 国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学
 学校法人 二本松学院／花園大学／佛教大学
 学校法人 森ノ宮医療学園／学校法人 立命館
 龍谷大学

よみのもの

特別展「宋元仏画―蒼海を越えたほとけたち」を観覧して

京都大学人文科学研究所准教授 吳孟晋

特別展を観覧する醍醐味は、事前の予想をいい意味で裏切られることにある。展覧会の名からなんとなく思い描いていた印象を塗り替えてくれるような、そのような驚きにみちた気づきが、この「宋元仏画」展にはあった。

「宋元仏画」は、その名のとおり、中国の宋時代から元時代にかけて制作された仏教絵画のことである。丹や緑の鮮やかな色彩で精緻に描かれた如来や菩薩たちの尊像や、画僧の牧谿に代表されるような水墨で簡潔に描かれた宗教的故事を主題とする道釈画を二つの核とする、悠久の地の「いのり」の美の結晶である。京博が誇るべき専門性の高い企画であり、美術史学の研究者のあいだでは前評判が高かったものの、一般の方にはなじみのないものとして敬遠される展示になってしまうのではないか。元館員として同展の立ち上げにかかわっていたときには妙案が思いつかず、後任の森橋なつみさんにすべてを託していた。

展示は、「宋元文化と日本」の第一章からはじまる七つの章と、二つのトピックで構成されている。ふつうの展覧会よりも章の数が多くなっているのは、中国絵画でありながら現存作のほとんどが日本にあるという、宋元仏画の最大の特徴をあますところなく伝えるためであった。本来、平常展示館として設計され、部屋数が多いうえに各室の大きさがまちまちな平成知新館の構造をうまく活かした、熟慮のたまものでもあらう。さまざまな仏画を尊格や主題ごとにまとめて展示することで、図像が転写されてゆく過程を比較することができた。そのうえで、鎌倉、室町時代での唐物賞玩から江戸絵画への影響まで、日本からのさまざまな視点をこまかく設定することにより、展示の導線がわかりやすく提示されていた。最後の第七章「日本美術と宋元仏画」のある一階の第六室に出陳された原在中による顔輝筆「蝦蟇鉄拐図」（重文、百萬遍知恩寺藏）の模写（京都国立博物館藏）や、田能村竹田による「白

衣観音像」（重文）の模写は、その拡がりを示す好例である。当初思い描いていた宗教性、そして専門性のつよい内容ではなく、宋元仏画の多様なあり方を今日の私たちにわかりやすいかたちで開示してくれた、そのことが新鮮な驚きであった。

これはひとえに主担当である森橋さんのはたらきであり、各分野の研究員のみなさんによる「全員参加」のたまものでもある。図録に収められたコラムの多さがそれを物語っている。さらに今回は共催各社の尽力も大きかったのではないだろうか。とくに毎日新聞社は平成二十九年（二〇一七）秋の「国宝」展をきっかけに宋元仏画の魅力に理解を示してください、この企画を提案いただいた。展示構成をつくりあげるにあたり、日々議論して内容を彫琢していったとうかがっている。

もちろん、展示の「わかりやすさ」は綿密な学術考証に裏打ちされていることである。たとえば、宋元の影響を受けた高麗仏画の名品である京都・妙満寺蔵の李晟筆「弥勒下生变相図」（重文）は本展で修理後初公開されたが、裏打ちをはがしたところ、封入されていた版本曼荼羅が発見されたことは大きな話題となった。宋元仏画研究の第一人者である井手誠之輔先生が企画協力された国際シンポジウムでも、図像の聖性にかんする議論が深められているのは大きな成果である。本展は、今後、日本から海外に発信する重要な研究成果のひとつに数えられるだろう。

もつとも、日本からの文脈で展示について欲をいえば、国内各地の寺院にちらばる「知られざる」名品をもつと拝見したかったという思いもある。各地の自治体の指定を受けている中国、朝鮮半島請来の仏画は思いのほが多く、まだ知られていないものもあるだろう。本展を契機にして、日本にある中国や朝鮮の美術の意義について関心が深まることをのぞきたい。

表紙：賀茂競馬文様小袖（部分） 永田七郎氏寄贈・京都国立博物館／伊集院忠棟書状（初紙、六月廿八日付）（部分） 東福寺即宗院関係文書のうち 長岡成光氏寄贈・京都国立博物館／重要美術品 三彩馬俑 錢高衣子氏寄贈・京都国立博物館／重要文化財 太公望図屏風（部分） 尾形光琳筆 京都国立博物館／小倉百人一首歌留多 尾形光琳筆／国宝 太刀 銘安家 京都国立博物館

講座・イベント

《土曜講座》

- 1月17日(土)「光琳かるたの絵と言葉」
京都国立博物館保存修理指導室長 福士雄也
- 1月24日(土)「東福寺即宗院とその文書」
京都国立博物館企画室長兼美術室長 羽田 聡
- 1月31日(土)「地域の宝をみんなでまもる
～能登半島地震における文化財レスキュー～」
京都国立博物館研究員 中屋菜緒
- 2月 7日(土)「手本をもってつくらせた茶碗」
京都国立博物館工芸室長 降矢哲男
- 2月14日(土)「涅槃図を見るポイント」
京都国立博物館教育室長 大原嘉豊
- 2月21日(土)「古墳時代の馬の装い」
京都国立博物館アソシエイトフェロー 緑納民之
- 2月28日(土)「雛まつりの装いⅡ」
京都国立博物館調査・国際連携室長 山内麻衣子
- 3月 7日(土)「仏画と仏像の荘厳」
京都国立博物館アソシエイトフェロー 大谷 弦
- 3月14日(土)「織部焼の虚像と実像」
京都国立博物館学芸部長 尾野善裕

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料（ただし講演会当日の観覧券等が必要）。

※当日9時30分より、平成知新館1階インフォメーションにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。

《留学生の日》

京都国立博物館では、留学生の方々に日本文化への理解を深めていただくため、「留学生の日」を設けています。今年度は令和8年2月15日(日)に実施します。留学生の方は、学生証をご提示いただくと、無料で名品ギャラリー（平常展示）をご観覧いただけるほか、「京都国立博物館ハンドブック」（日本語版、英語版、中国語版、韓国語版のいずれか）をプレゼントします。この機会にぜひご来館ください。

これからの展覧会

◆ 特別展 北野天神

令和8年4月18日(土)～6月14日(日)

◆ 特別展 源氏物語 王朝のかがやき

令和8年10月6日(火)～11月29日(日)

◆ 名品ギャラリーの休止予定 ◆

特別展とその前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー休止期間：令和8年3月24日(火)～4月16日(木)
※上記期間中は庭園のみ開館となります。

ご利用案内

【開館時間】<12月16日～令和8年4月16日>

9:30～17:00

*金曜日は20:00まで開館

*入館は各開館の30分前まで

【観覧料】【名品ギャラリー】

<12月16日～令和8年3月22日>

一般700円、大学生350円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料（要証明）。

*キャンパスメンバーズ（教職員を含む）は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【庭園のみ開館期間】

<令和8年3月24日～4月16日>

一般300円、大学生150円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料（要証明）。

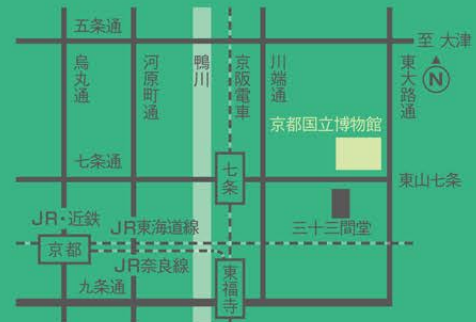
*キャンパスメンバーズ（教職員を含む）は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

*有料（一般のみ）にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がつきます。

【休館日】月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館）、12月29日(月)～令和8年1月1日(木・祝)

アクセス

JR＝京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂下車すぐ
プリンスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
近鉄電車＝近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車＝七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車＝京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。



*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒（角2封筒は140円、長3封筒は110円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館企画室までお申し込みください。

公式サイト

<https://www.kyohaku.go.jp/>

X (旧 Twitter)・Instagram

@KyotoNatMuseum



公式キャラクター・トラりんサイト

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/torarin/>

〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

発行日 令和8年1月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM



京都国立博物館の庭園をめぐるアプリケーション 「京博庭園ナビ」

「京博庭園ナビ」は、お持ちのスマートフォンやタブレットを使って、京都国立博物館の庭園を楽しんでいただける無料のアプリケーションです。屋外展示や建物など、特定のスポットにカメラをかざすと、解説やARが表示されます。ご来館の際にぜひご利用ください。

利用可能時間：9:30～16:30 料金：無料（ただし、当日の観覧券等が必要）

※館内ではフリー Wi-Fi をご利用いただけます。

※パソコンでは正しく動作しません。

詳しい利用方法はこちら

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/learn/museum/garden-navi/>